

3月18日（月） 放送朝会 校長先生のお話です

～最後まで学年展示が残りました～

お話をします。

この土・日は暖かく春の訪れを感じましたが、今日からはまた冬の寒さに戻るという予報が出ています。急に寒くなることで体調を崩さないように気を付けましょう。3月は別れの季節と言われます。日本では、4月から学校が新しい年度を迎えるなど、1年の締めくくりとなります。明日の19日の新聞で、学校関係の異動の記事が一部の新聞に載ります。昨年度は21日でさらに早くなりました。今年は、去年にも増して多くの先生方が新しい学校に異動します。また、新聞に載らなくても退職をする先生もいます。修了式でその先生、職員の方を紹介をし、4月26日の離任式でみなさんにお別れの言葉をいただきます。

さて、今日は今年度最後の朝会のお話として、5年生が作成した学年展示についてお話をします。今年のテーマである周年と言うことで、素晴らしい作品を中庭に創ってくれました。本来ならば、最後までそのままの形で置いていたかったのですが、中庭は清新一小にとって貴重な活動場所の一つです。少しずつ撤去されていきましたが、残せる部分は残しています。私が感心したのは、そのままの形で置いておこうと思えばできました。いたずらされず、わざとでなくとも、壊されない状態が続いたことです。これは、一つの勲章かもしれません。その中庭を使ったのは5年生だけではありません。みんなが記念すべき展示を大事に扱ってくれたことを嬉しく思います。

最後に、先週は、外国語科で5・6年の交流会、音楽で4・5年の交流会がありました。どちらも先輩学年がお手本となって後輩たちに目標を与えてくれたようです。今週は卒業式があります。すばらしい卒業式を6年生が魅せてくれるでしょう。明日の卒業式の予行練習では、当日参列できない5年生に来年度に向けてお手本を見せ、これが卒様式であるという雰囲気を「つないで」ほしいと思います。どの学年も後4日で今年度が終わります。担任の先生との別れもあるでしょう。最後の4日間を特別な時間として過ごしてください。お話を終わります。